



*Safety and Health*

# 安全と健康

No.243

今月のおススメ改善事例

今月の改善事例

バングラデシュ、ダッカのイースタン・チューブ (本文参照) での改善事例  
この工場では蛍光灯を生産しています。コンプレッサーからの空気と硝子加工用の可燃ガスを供給する配管では、事故防止のため管とバルブの色を変えています。



- 今秋期、NOアスベスト・キャンペーンにご参加を!…2
- 定例会報告…4
  - ①「自覚症しらべ」と「頸肩腕傷害の予防と対策」
  - ②「有害物質とPRTR」
- 全国センター厚生労働省交渉…7
- バングラデシュでのPOSITIVEセミナー…8
- 職場の取り組みあれ・これ
  - ・全統一今年も職場見学会…10
  - ・下町ヘルパー交流会
  - ・ホームヘルパーの腰痛対策でグループワーク…12
  - ・じん肺患者同盟建設東京支部 & 建設じん肺被災者の会結成!…14
  - ・建設ユニオン調布支部 腰痛対策講座…15
- センター活動日誌&スケジュール…16

特定非営利活動法人  
東京労働安全衛生センター機関紙  
〈頒価〉 200円

発行人:平野敏夫  
住所:〒136-0071 東京都江東区亀戸 7-10-1 Zビル5F  
Tel (03)-3683-9765 Fax (03)-3683-9766  
E-mail etoshc@jca.apc.org  
Homepage URL <http://www.jca.apc.org/etoshc/>  
振替:【郵便】00160-8-183157  
【中央労金亀戸支店】284-1612779  
発行日:2003年 8月28日

## 建設労働者のじん肺・アスベスト被害根絶を訴え

じん肺患者同盟建設東京支部

建設じん肺被災者の会・東京（ひまわりの会）



▲結成を宣言する藤沢会長

全建総連東京都連、東京労働安全衛生センター、亀戸ひまわり診療所がこの間取り組んでいる建設労働者のじん肺・アスベスト被害根絶の運動が順調に広がっています。組合の健康診断のレントゲン写真の再読影によるじん肺・アスベスト肺のチェックやレセプトのチェックによって、被災者の早期発見と救済の取り組みを共同して続けてきました。その結果じん肺管理区分を受けた人は45名、管理4や続発性気管支炎などの合併症で労災になった人は25名になりました。なかには肺がんなどで亡くなった方もおられます。被災者は全員が全建総連東京都連の組合員で、長年建築現場で働いてきた仲間同士です。同じ曜日にひまわり診療所を受診することが多く、昨年からの交流の機運は高まっていたのですが、このたび「建設じん肺被災者の会・東京（通称ひまわりの会）」が結成されました。

7月3日亀戸で結成総会が開かれました。同時に、労災で療養中の方を対象に「全国じん肺患者同盟建設東京支部」も結成されました。会の目的は、①じん肺・アスベスト疾患被災者間の交流と相互支援、②充実した補償制度を求めるための政策提言活動、③建設現場でのじん肺・アスベスト疾患

# 結成!

報告 センター代表 平野 敏夫

をなくすための活動の3つです。建築業での粉じん作業やじん肺・アスベスト疾患は社会的に未だ知られておらず、建築労働者の間でもまだまだ熟知されていないとは限りません。今後の若い世代がじん肺、肺がん、中皮腫にならないために、また多くの仲間が早期に気付くためにも会の活動は重要になるでしょう。

結成総会には、来賓として全建総連本部と東京都連、全国じん肺患者同盟の東京東部支部と横須賀支部も駆けつけ励ましと連帯の挨拶をされました。藤沢良男（東建従）会長が結成宣言を読み上げ（左上写真）、会の規約、2003年度の活動計画として家族の集いや東京労働局交渉などを採択し、熱気の中に結成総会を終えました。2039年までにアスベストによる中皮腫で約10万人の命が奪われるという予測が出されており、建築労働者の被災者が増えることも予想されます。会の今後の活動が期待されます。（了）



▲今後の活動を推進する役員の方々の皆さんも勢揃い。